

# (一社)北海道商工会議所連合会 中小企業景況調査報告書

## 第169回 調査概要

・調査対象期間 : 2023年1~3月期 実績  
2023年4~6月期 見通し  
・回答数 : 364社  
・発行日 : 2023年 4月 24日

### 今期業況・来期見通し

業況・売上・採算はいずれも悪化。来期には持ち直しの見込み。  
コメントは、コスト増および人手不足に関するものが多数。

### ■主なコメント

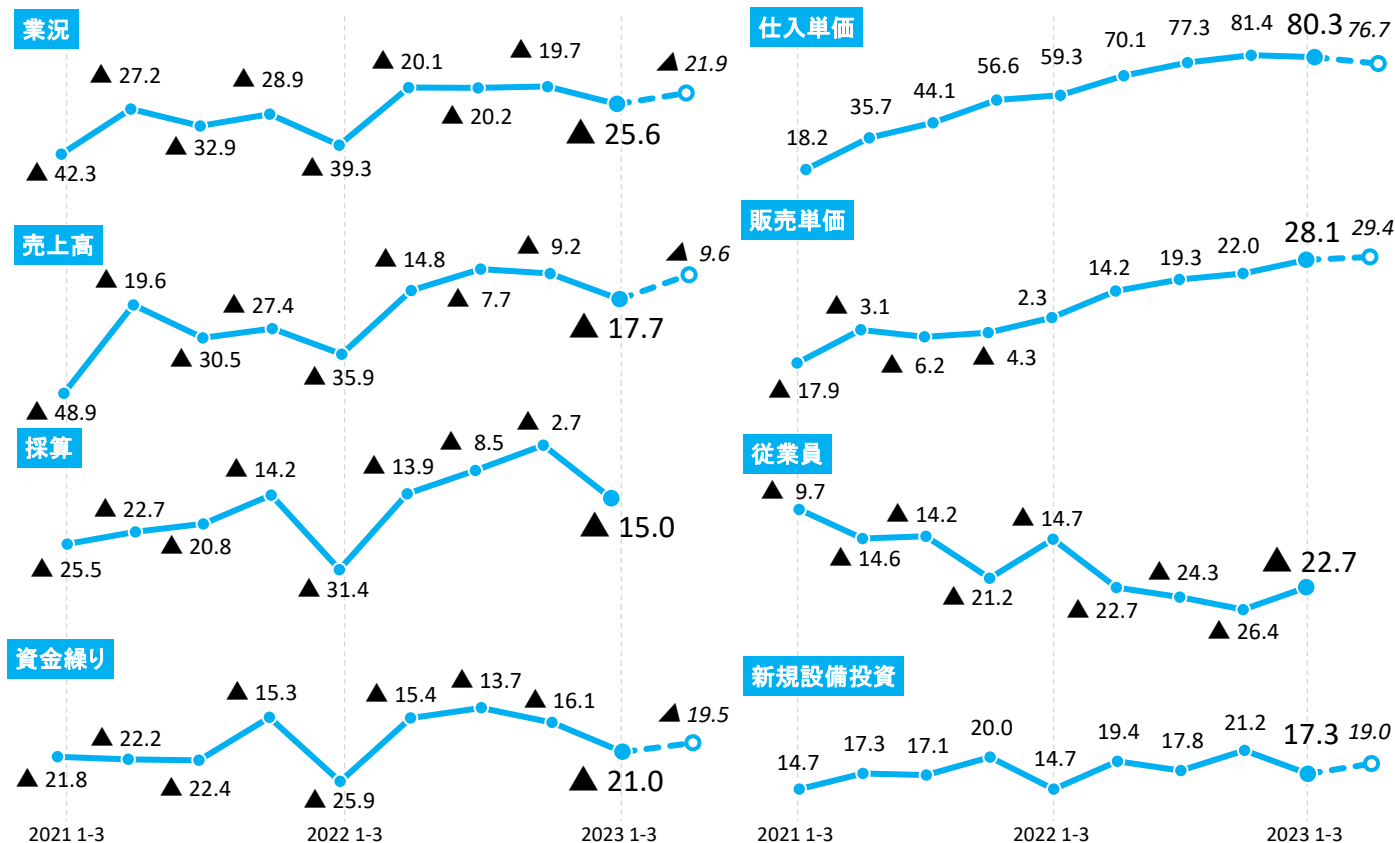
- ・原材料の仕入価格は前年同期と比べ大幅上昇。一部商品は仕入の値上がり分を価格転嫁できたが、買い控え等により売上は減少となった。(プラスチック製品製造業)
- ・新卒採用ができない。仕事はあるので技術の承継をしたいが、育てる若手がない状況。人手不足を労働時間の延長で補ってきたが、法改正で残業時間の制限も必要となり、苦しい状況になっている。(板金工事業)
- ・コロナ禍の閉塞感からようやく脱出できそうだが、これからは賃上げが課題。賃上げはしたいが大企業並みの水準は難しいことから、賃上げの報道等では、上げ幅・金額だけでなく企業規模についても触れてほしいと感じている。(金属製品製造業)

### ■全産業D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況(前年同期比)	▲ 42.3	▲ 27.2	▲ 32.9	▲ 28.9	▲ 39.3	▲ 20.1	▲ 20.2	▲ 19.7	▲ 25.6	▲ 21.9
売上高(前年同期比)	▲ 48.9	▲ 19.6	▲ 30.5	▲ 27.4	▲ 35.9	▲ 14.8	▲ 7.7	▲ 9.2	▲ 17.7	▲ 9.6
採算(今期の経常損益)	▲ 25.5	▲ 22.7	▲ 20.8	▲ 14.2	▲ 31.4	▲ 13.9	▲ 8.5	▲ 2.7	▲ 15.0	-
資金繰り(前年同期比)	▲ 21.8	▲ 22.2	▲ 22.4	▲ 15.3	▲ 25.9	▲ 15.4	▲ 13.7	▲ 16.1	▲ 21.0	▲ 19.5
仕入単価(前年同期比)	18.2	35.7	44.1	56.6	59.3	70.1	77.3	81.4	80.3	76.7
販売単価(前年同期比)	▲ 17.9	▲ 3.1	▲ 6.2	▲ 4.3	2.3	14.2	19.3	22.0	28.1	29.4
従業員(今期の過不足)	▲ 9.7	▲ 14.6	▲ 14.2	▲ 21.2	▲ 14.7	▲ 22.7	▲ 24.3	▲ 26.4	▲ 22.7	-
新規設備投資した割合	14.7	17.3	17.1	20.0	14.7	19.4	17.8	21.2	17.3	19.0

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。

○ 来期見通



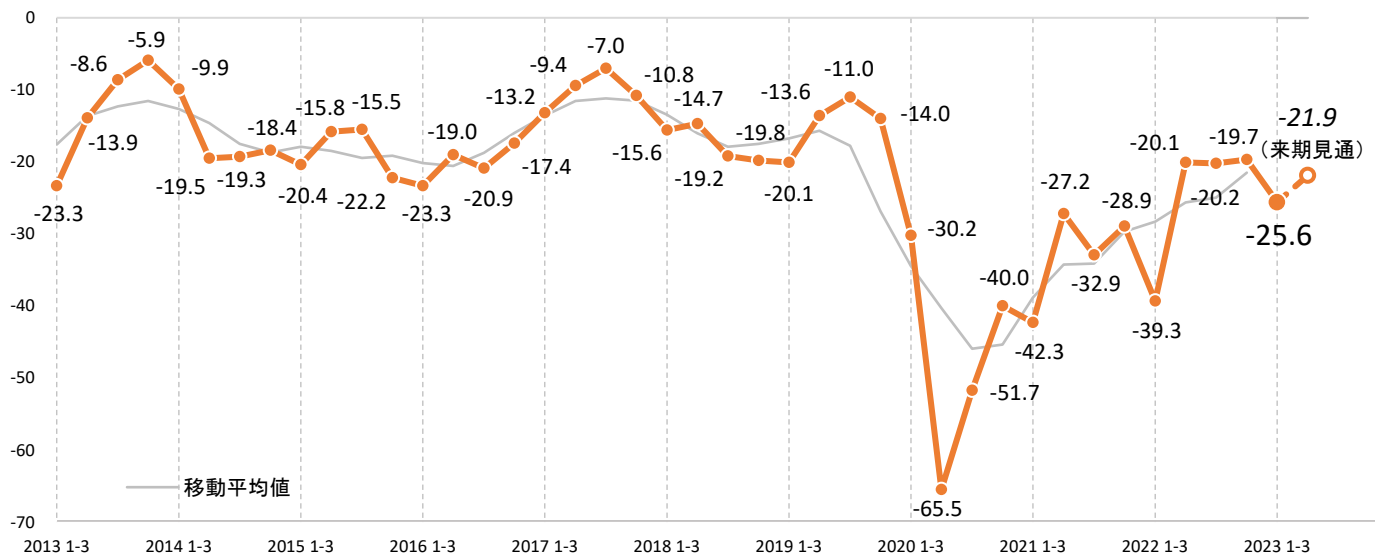
# I. 業況

## 1. 今期

前年同期比

(2022年1~3月期の水準と比較した今期の業況)

全業種平均D・I 《好転—悪化》



業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 25.6	11.8%	50.8%	37.4%	▲ 19.7
製造	▲ 39.3	8.9%	42.9%	48.2%	▲ 20.3
建設	▲ 20.0	9.3%	61.4%	29.3%	▲ 9.4
卸売	▲ 23.7	11.9%	52.5%	35.6%	▲ 20.0
小売	▲ 23.5	14.7%	47.1%	38.2%	▲ 25.0
サービス	▲ 21.4	14.3%	50.0%	35.7%	▲ 23.7

■好転 □不変 ■悪化

前期比

(2022年10~12月期の水準と比較した今期の業況)

業種別D・I値

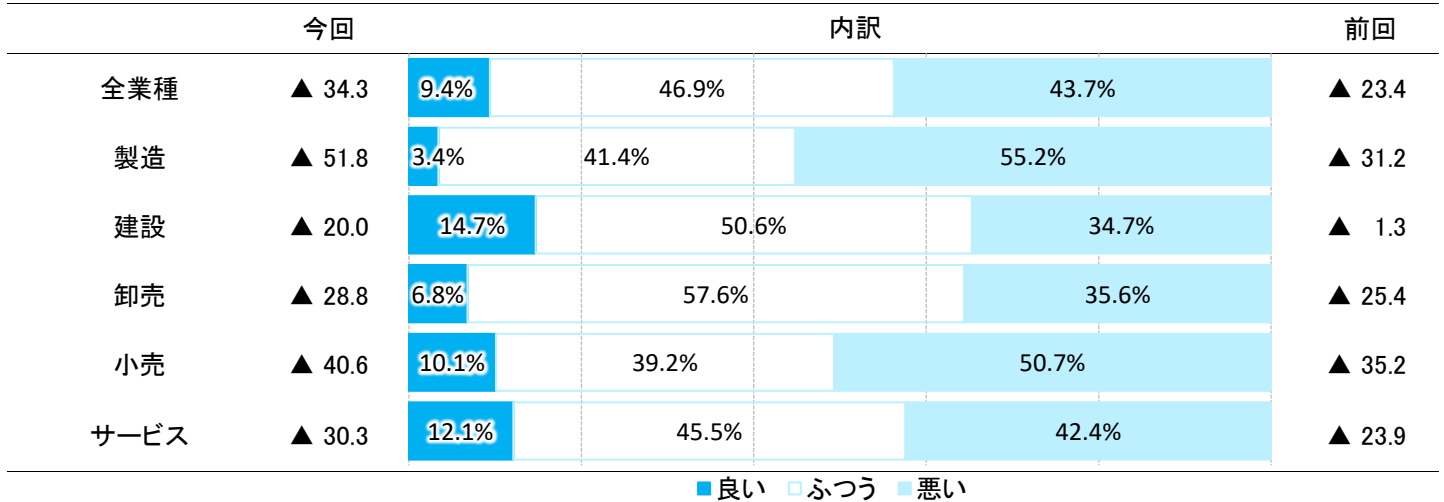
業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 29.3	8.4%	53.9%	37.7%	▲ 17.4
製造	▲ 36.5	5.8%	51.9%	42.3%	▲ 25.9
建設	▲ 15.3	13.9%	56.9%	29.2%	0.0
卸売	▲ 32.1	5.4%	57.1%	37.5%	▲ 10.6
小売	▲ 27.0	9.5%	54.0%	36.5%	▲ 27.0
サービス	▲ 35.5	7.5%	49.5%	43.0%	▲ 23.4

■好転 □不変 ■悪化

今期の水準

(2023年1~3月期の水準)

業種別D・I値

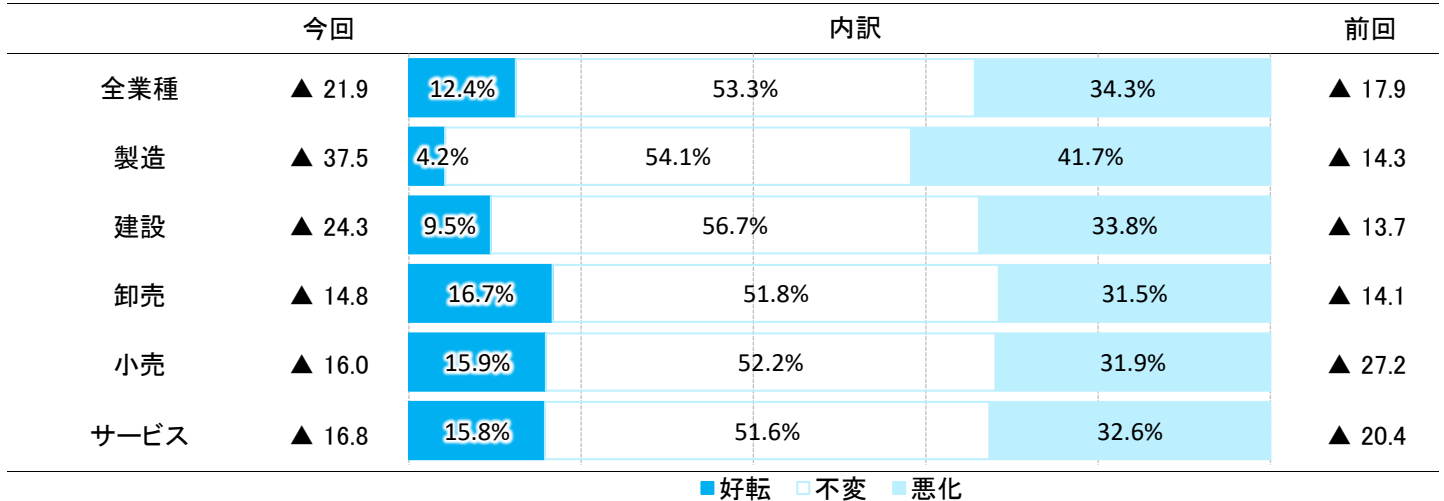


2. 来期

前年同期比

(2022年4~6月期の水準と比較した来期の見通し)

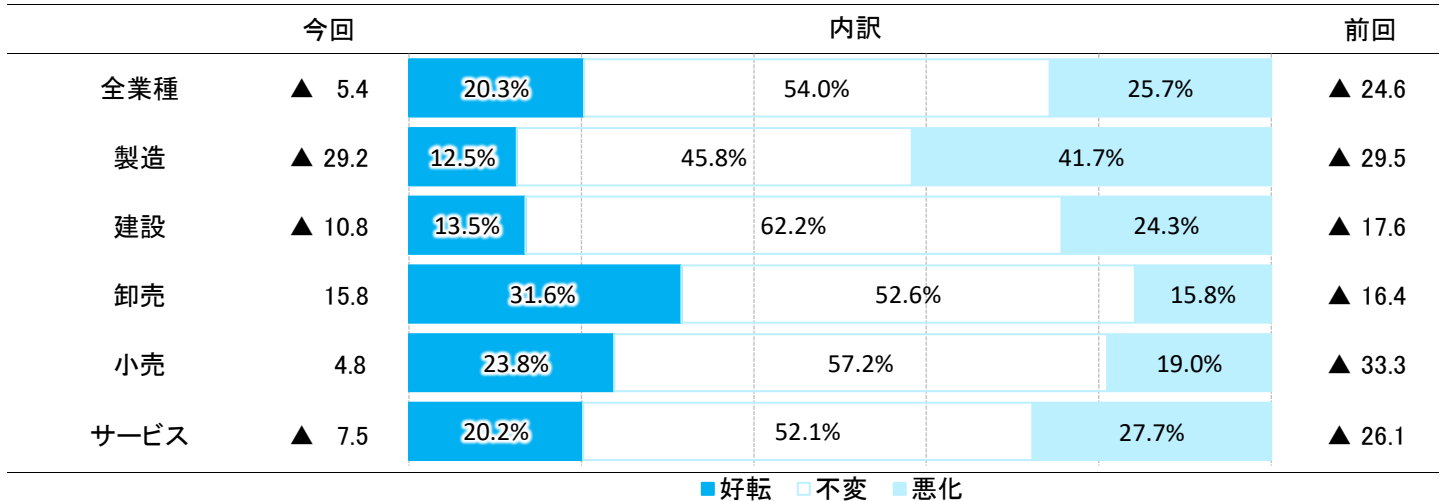
業種別D・I値



今期比

(2023年1~3月期の水準と比較した来期の見通し)

業種別D・I値



## Ⅱ. 売上高

### 1. 今期

前年同期比

(2022年1～3月期の水準と比較した今期の売上高)

全業種平均D・I 《増加－減少》



業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		増加	不変	減少	
全業種	▲ 17.7	23.2%	35.9%	40.9%	▲ 9.2
製造	▲ 24.2	24.1%	27.6%	48.3%	▲ 4.8
建設	▲ 25.3	18.7%	37.3%	44.0%	▲ 6.7
卸売	▲ 6.6	26.7%	40.0%	33.3%	▲ 6.7
小売	▲ 15.4	25.4%	33.8%	40.8%	▲ 17.1
サービス	▲ 17.0	21.0%	41.0%	38.0%	▲ 10.5

■増加 □不変 ■減少

前期比

(2022年10～12月期の水準と比較した今期の売上高)

業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		増加	不変	減少	
全業種	▲ 40.0	13.8%	32.4%	53.8%	▲ 7.9
製造	▲ 50.0	10.7%	28.6%	60.7%	▲ 11.3
建設	▲ 26.7	17.3%	38.7%	44.0%	▲ 4.0
卸売	▲ 48.4	13.3%	25.0%	61.7%	▲ 6.7
小売	▲ 39.4	15.5%	29.6%	54.9%	▲ 10.0
サービス	▲ 35.4	12.1%	40.4%	47.5%	▲ 7.3

■増加 □不変 ■減少

### 2. 来期

前年同期比

(2022年4～6月期の水準と比較した来期の見通し)

業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		増加	不変	減少	
全業種	▲ 9.6	20.5%	49.4%	30.1%	▲ 12.4
製造	▲ 20.0	14.5%	51.0%	34.5%	▲ 8.1
建設	▲ 24.0	9.3%	57.4%	33.3%	▲ 17.6
卸売	13.5	28.8%	55.9%	15.3%	▲ 5.1
小売	▲ 11.2	26.8%	35.2%	38.0%	▲ 17.1
サービス	▲ 6.1	23.2%	47.5%	29.3%	▲ 13.7

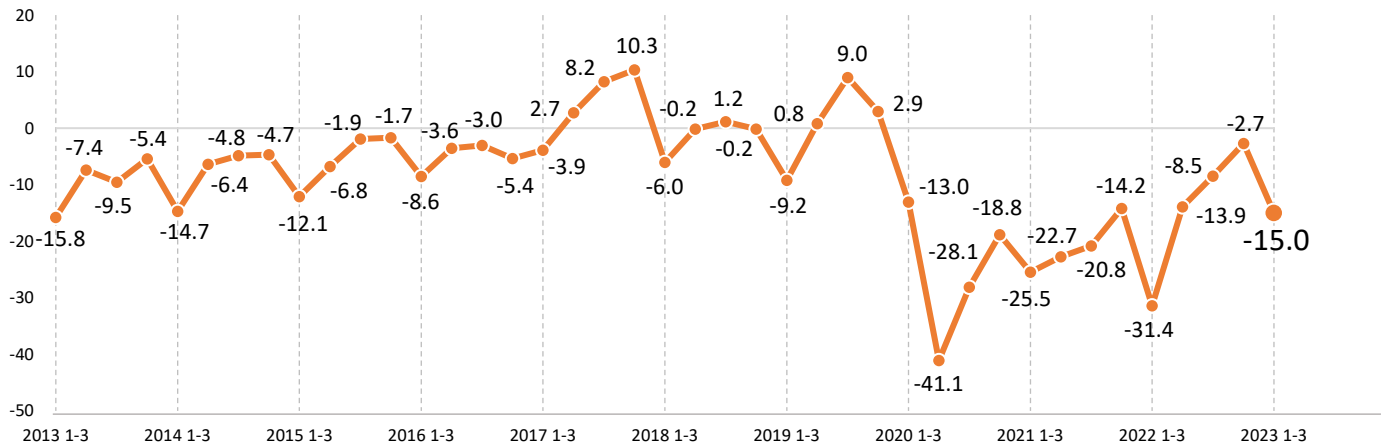
■増加 □不変 ■減少

### Ⅲ. 採算(経常利益)

#### 1. 今期

今期の水準 (2023年1~3月期の水準)

全業種平均D・I ≪黒字-赤字≫



業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		黒字	収支トントン	赤字	
全業種	▲ 15.0	17.2%	50.6%	32.2%	▲ 2.7
製造	▲ 36.8	5.3%	52.6%	42.1%	▲ 21.0
建設	5.3	24.0%	57.3%	18.7%	25.7
卸売	▲ 10.2	20.3%	49.2%	30.5%	0.0
小売	▲ 14.3	20.0%	45.7%	34.3%	▲ 9.0
サービス	▲ 19.2	16.2%	48.4%	35.4%	▲ 9.4

■黒字 □収支トントン ■赤字

前年同期比 (2022年1~3月期の水準と比較した今期の採算)

業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 33.2	10.5%	45.8%	43.7%	▲ 31.6
製造	▲ 51.9	7.4%	33.3%	59.3%	▲ 37.3
建設	▲ 37.4	5.3%	52.0%	42.7%	▲ 33.3
卸売	▲ 20.0	11.7%	56.6%	31.7%	▲ 25.0
小売	▲ 23.9	15.5%	45.1%	39.4%	▲ 28.6
サービス	▲ 33.0	12.4%	42.2%	45.4%	▲ 33.4

■好転 □不変 ■悪化

#### 2. 来期

前年同期比 (2023年4~6月期の水準と比較した来期の見通し)

業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 29.1	9.5%	51.9%	38.6%	▲ 29.7
製造	▲ 50.0	3.7%	42.6%	53.7%	▲ 33.9
建設	▲ 29.4	5.3%	60.0%	34.7%	▲ 35.1
卸売	▲ 16.6	11.7%	60.0%	28.3%	▲ 18.9
小売	▲ 21.1	14.1%	50.7%	35.2%	▲ 25.7
サービス	▲ 28.5	12.6%	46.3%	41.1%	▲ 35.1

■好転 □不変 ■悪化

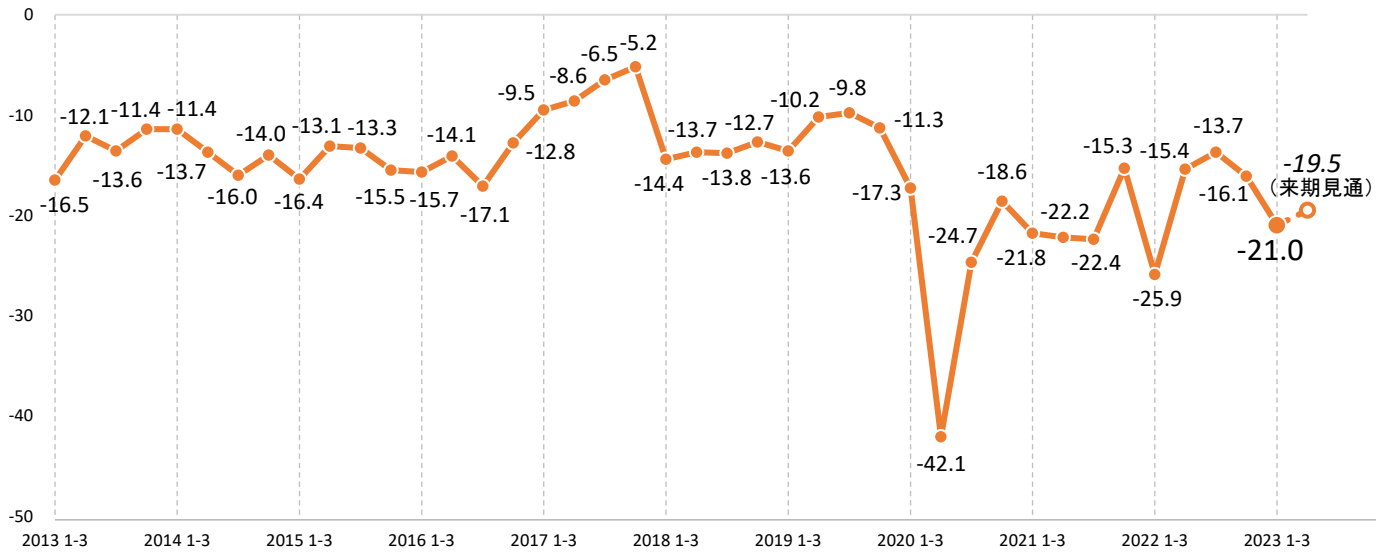
## IV. 資金繰り

### 1. 今期

前年同期比

(2022年1～3月期の水準と比較した今期の資金繰り)

全業種平均D・I 《好転—悪化》



業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 21.0	4.7%	69.6%	25.7%	▲ 16.1
製造	▲ 32.1	3.6%	60.7%	35.7%	▲ 24.2
建設	▲ 10.7	5.3%	78.7%	16.0%	▲ 1.3
卸売	▲ 15.0	5.0%	75.0%	20.0%	▲ 11.6
小売	▲ 24.7	4.3%	66.7%	29.0%	▲ 23.2
サービス	▲ 22.6	5.2%	67.0%	27.8%	▲ 19.8

■好転 □不変 ■悪化

### 2. 来期

前年同期比

(2022年4～6月期の水準と比較した来期の見通し)

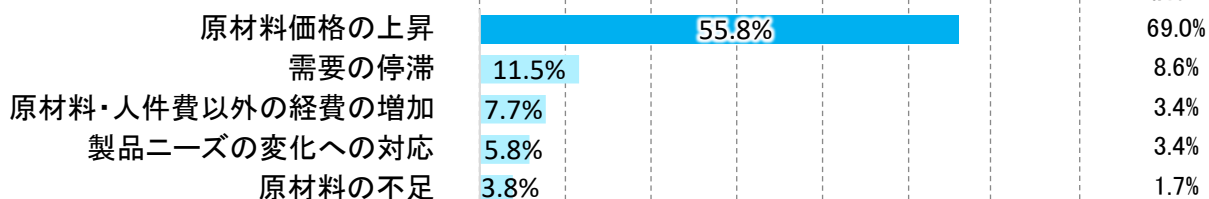
業種別D・I値

業種	今回	内訳			前回
		好転	不変	悪化	
全業種	▲ 19.5	4.7%	71.1%	24.2%	▲ 13.3
製造	▲ 30.9	1.8%	65.5%	32.7%	▲ 13.4
建設	▲ 8.0	4.0%	84.0%	12.0%	▲ 8.0
卸売	▲ 13.3	5.0%	76.7%	18.3%	▲ 8.5
小売	▲ 26.1	4.3%	65.3%	30.4%	▲ 18.8
サービス	▲ 19.4	8.2%	64.2%	27.6%	▲ 18.1

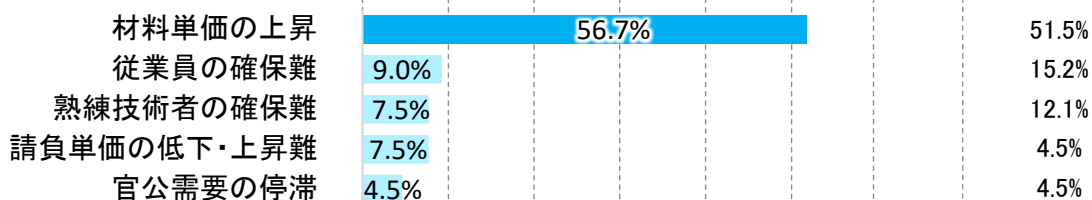
■好転 □不変 ■悪化

## V. 経営上の問題点(上位5項目)

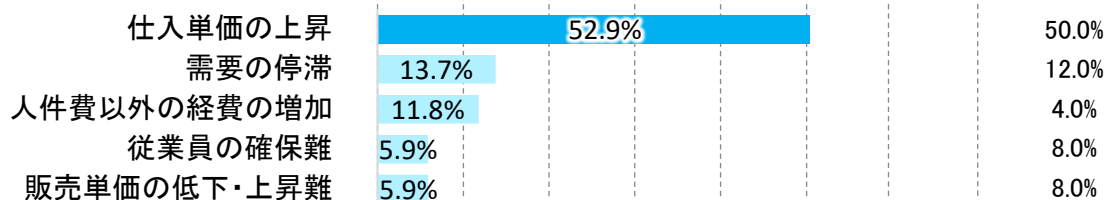
### 製造業



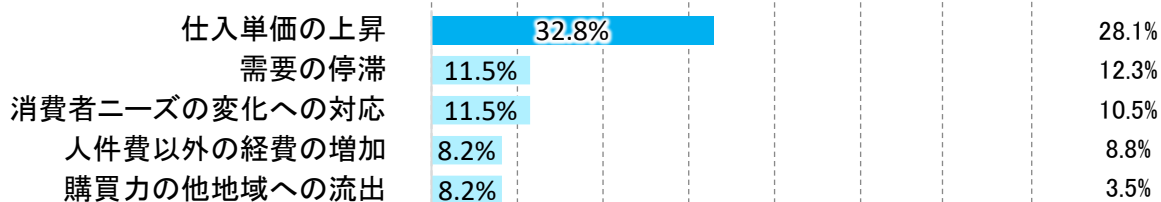
### 建設業



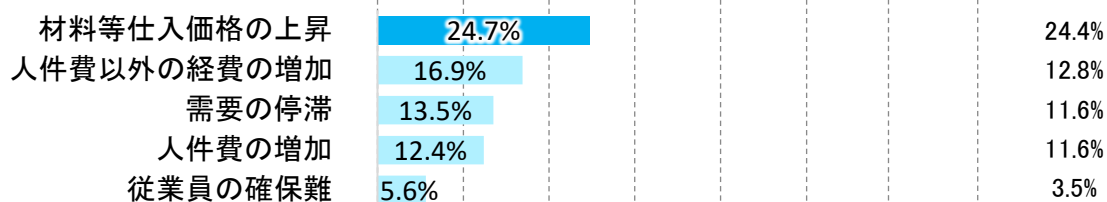
### 卸売業



### 小売業



### サービス業



## VI. 従業員の動向

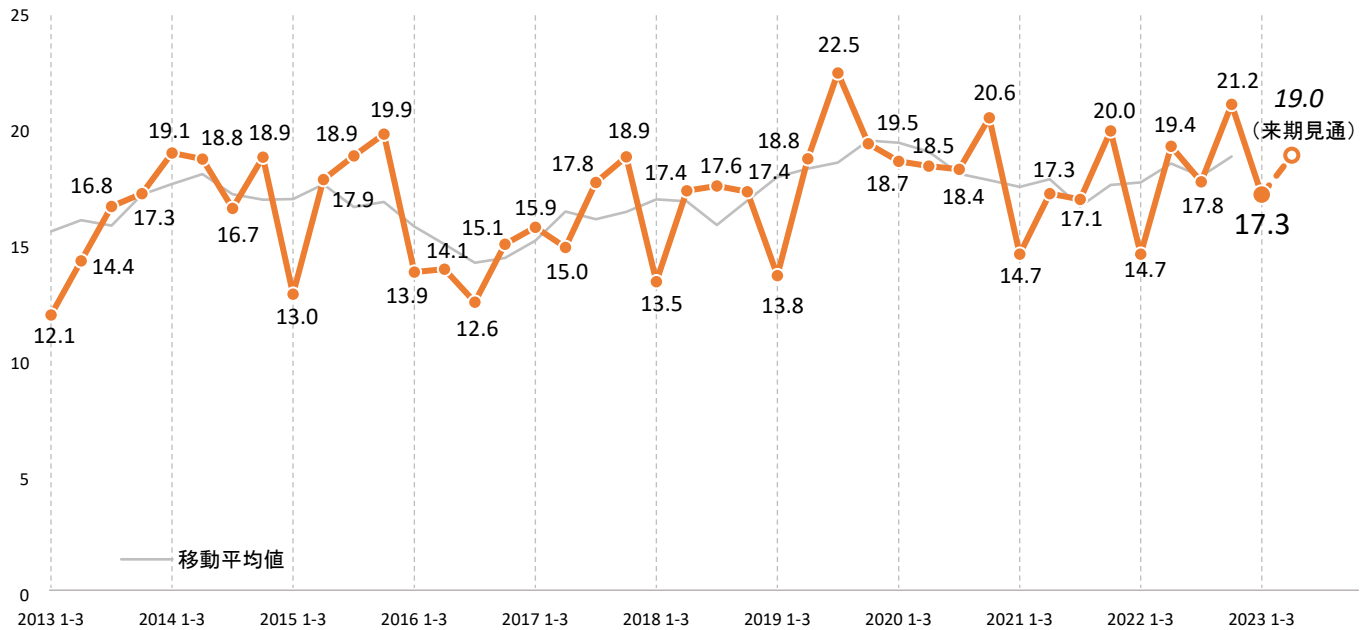
### 業種別D・I値

業種	今回	内訳		前回
		過剰	不足	
全業種	▲ 22.7	2.4%	25.1%	▲ 26.4
製造	▲ 21.1	3.5%	24.6%	▲ 22.9
建設	▲ 28.3	1.4%	29.7%	▲ 44.6
卸売	▲ 23.7	1.8%	25.5%	▲ 29.3
小売	▲ 13.3	2.9%	16.2%	▲ 7.4
サービス	▲ 27.2	2.3%	29.5%	▲ 27.9

■ 過剰 □ 適正 ■ 不足

## VII. 新規設備投資

新規設備投資実施の動向(全業種平均%)



### 1. 今期

(単位%)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業
実施した	17.3	21.1	15.5	15.8	11.3	22.6
土地	5.3	0.0	9.1	0.0	12.5	4.8
工場建物、建物、店舗	6.6	0.0	9.1	0.0	0.0	23.8
生産・販売・サービス設備、建設機械	27.8	58.3	27.3	0.0	25.0	28.6
車両運搬具	36.2	16.7	72.7	44.4	37.5	9.5
倉庫・駐車場等の付帯施設	12.4	8.3	0.0	22.2	12.5	19.0
OA機器	29.1	25.0	27.3	44.4	25.0	23.8
厚生施設	3.9	8.3	0.0	11.1	0.0	0.0
その他	10.2	0.0	0.0	22.2	0.0	28.6
実施していない	82.7	78.9	84.5	84.2	88.7	77.4

### 2. 来期

(単位%)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業
実施する	19.0	17.5	27.4	12.3	12.9	24.7
土地	9.3	0.0	10.0	14.3	22.2	0.0
工場建物、建物、店舗	24.9	20.0	25.0	28.6	33.3	17.4
生産・販売・サービス設備、建設機械	30.1	50.0	15.0	28.6	22.2	34.8
車両運搬具	34.6	20.0	45.0	57.1	33.3	17.4
倉庫・駐車場等の付帯施設	13.6	10.0	15.0	14.3	11.1	17.4
OA機器	26.8	30.0	35.0	14.3	11.1	43.5
厚生施設	5.7	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
その他	23.6	40.0	10.0	28.6	22.2	17.4
実施しない	81.0	82.5	72.6	87.7	87.1	75.3



# 製造業

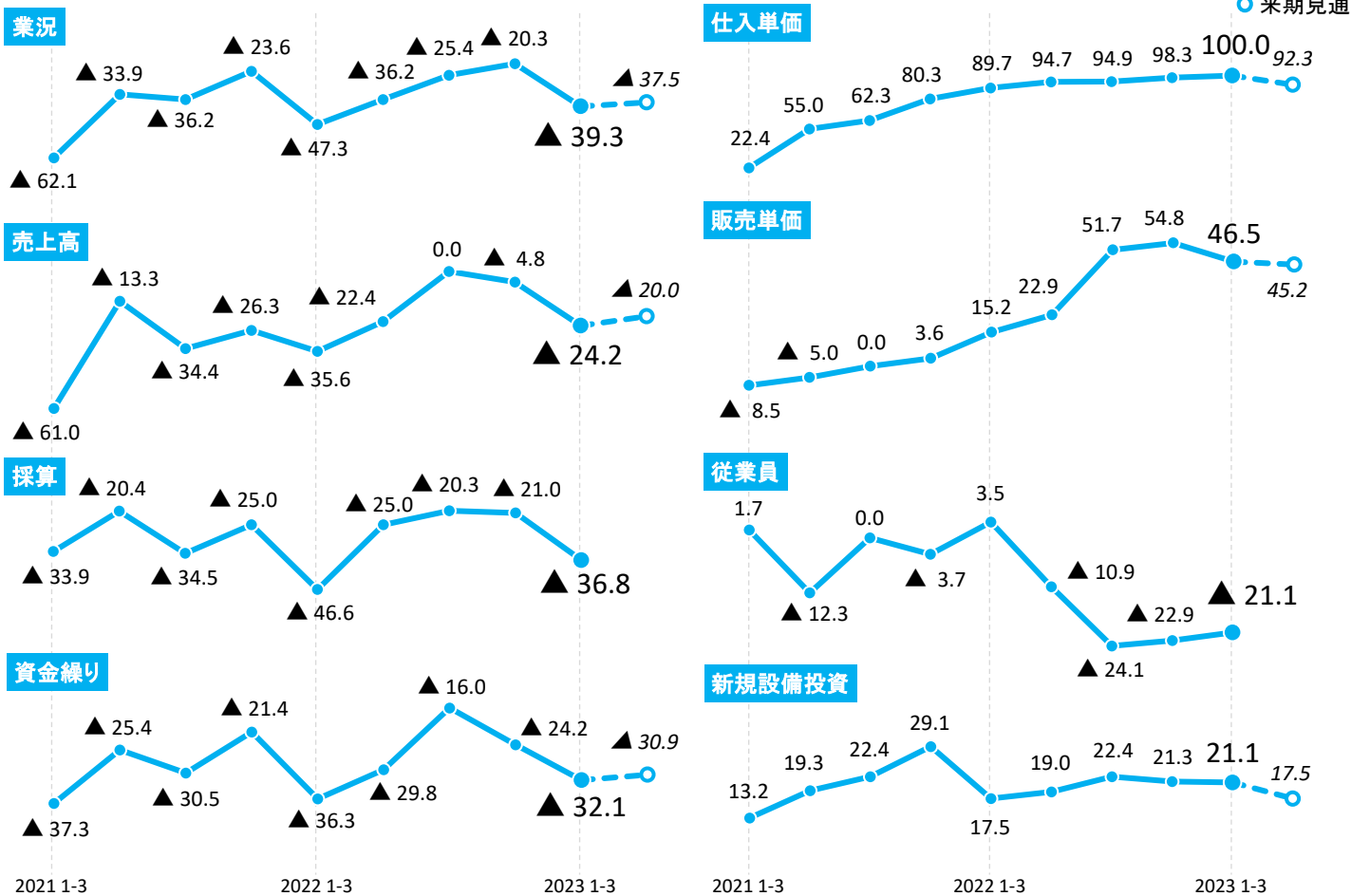
## ■主なコメント

- ・原材料価格の上昇が続いている。先日は電気の契約をしている会社から、年間で100万円ほどの負担増になるという連絡を受けた。世界情勢からやむを得ない部分はあるが、政策的な支援の必要性を感じている。（食品製造業）
- ・資材の値上げが続いており、営業担当者も疲弊している。値上げが自社の客離れにとどまらず、業界全体の縮小になることを懸念している。（印刷業）
- ・人材確保に苦勞する状況が続くと考える。また部品や材料の不足により、設備の納入も遅れている状況。（飲料製造業）

## ■D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況 (前年同期比)	▲ 62.1	▲ 33.9	▲ 36.2	▲ 23.6	▲ 47.3	▲ 36.2	▲ 25.4	▲ 20.3	▲ 39.3	▲ 37.5
売上高 (前年同期比)	▲ 61.0	▲ 13.3	▲ 34.4	▲ 26.3	▲ 35.6	▲ 22.4	0.0	▲ 4.8	▲ 24.2	▲ 20.0
採算 (今期の経常損益)	▲ 33.9	▲ 20.4	▲ 34.5	▲ 25.0	▲ 46.6	▲ 25.0	▲ 20.3	▲ 21.0	▲ 36.8	-
資金繰り (前年同期比)	▲ 37.3	▲ 25.4	▲ 30.5	▲ 21.4	▲ 36.3	▲ 29.8	▲ 16.0	▲ 24.2	▲ 32.1	▲ 30.9
仕入単価 (前年同期比)	22.4	55.0	62.3	80.3	89.7	94.7	94.9	98.3	100.0	92.3
販売単価 (前年同期比)	▲ 8.5	▲ 5.0	0.0	3.6	15.2	22.9	51.7	54.8	46.5	45.2
従業員 (今期の過不足)	1.7	▲ 12.3	0.0	▲ 3.7	3.5	▲ 10.9	▲ 24.1	▲ 22.9	▲ 21.1	-
新規設備投資した割合	13.2	19.3	22.4	29.1	17.5	19.0	22.4	21.3	21.1	17.5

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。



# 建設業

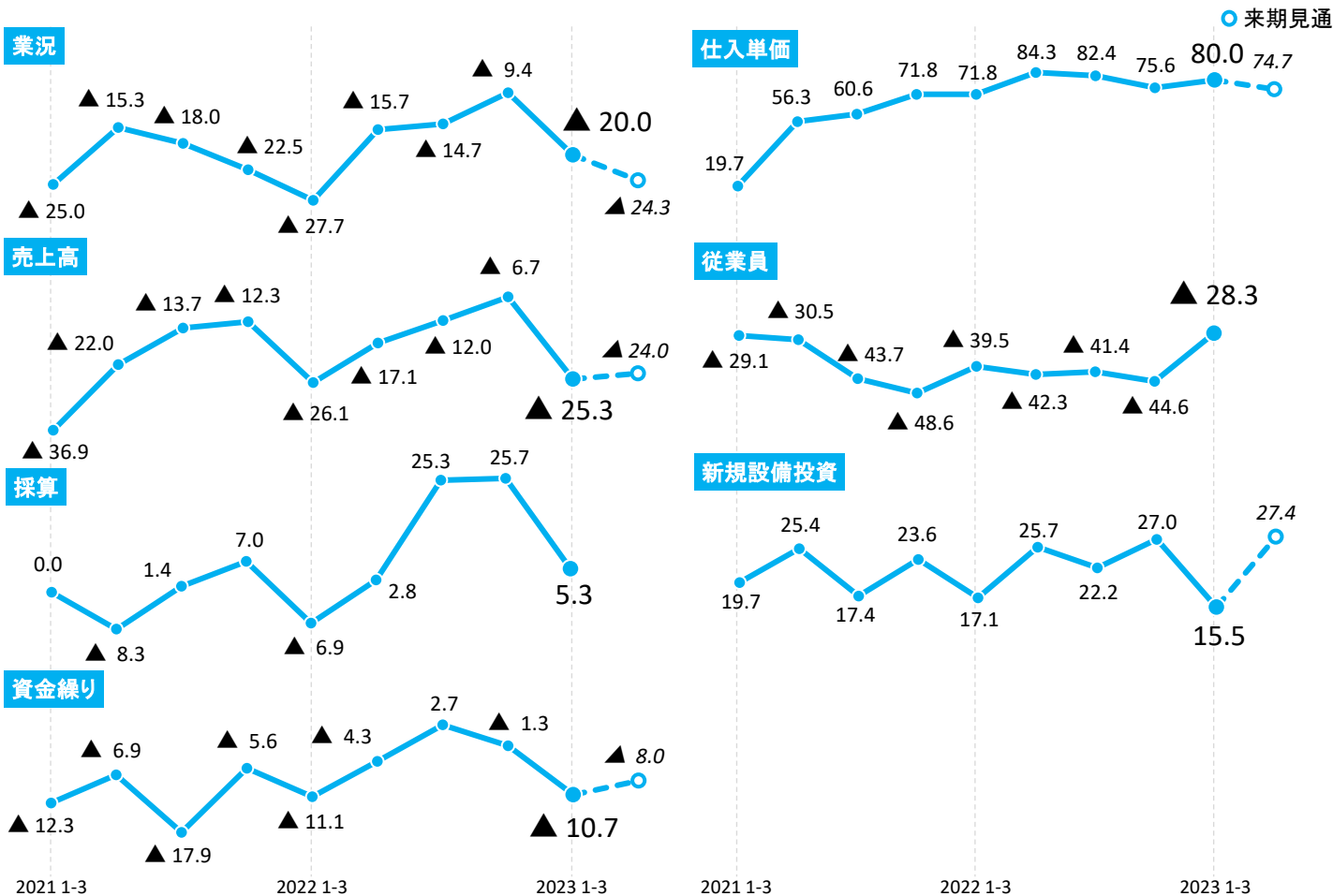
## ■主なコメント

- ・一般住宅の建築確認申請件数は全道・当地とも減少している。また今シーズンは雪害による需要も少なかった。出稼ぎをする業者も数年ぶりに出てきているようで、先行きに不透明感を感じている。  
(建築塗装業)
- ・公共工事の減少と原材料価格の高騰が打撃となっている。業界の人手不足が深刻で、外国人の採用も検討したが、定住には結びつかず、突然いなくなる事例なども聞くことからなかなか前向きにはなれない。  
(建設業)
- ・公共工事の受注が今後の鍵と考えているが、競争が多く、なかなか受注できない。また従業員の高齢化が進み、若手技術職の採用に力を入れているが、土木系の大卒者採用が難しい。  
(ゼネコン)

## ■D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況 (前年同期比)	▲ 25.0	▲ 15.3	▲ 18.0	▲ 22.5	▲ 27.7	▲ 15.7	▲ 14.7	▲ 9.4	▲ 20.0	▲ 24.3
売上高 (前年同期比)	▲ 36.9	▲ 22.0	▲ 13.7	▲ 12.3	▲ 26.1	▲ 17.1	▲ 12.0	▲ 6.7	▲ 25.3	▲ 24.0
採算 (今期の経常損益)	0.0	▲ 8.3	1.4	7.0	▲ 6.9	2.8	25.3	25.7	5.3	-
資金繰り (前年同期比)	▲ 12.3	▲ 6.9	▲ 17.9	▲ 5.6	▲ 11.1	▲ 4.3	2.7	▲ 1.3	▲ 10.7	▲ 8.0
仕入単価 (前年同期比)	19.7	56.3	60.6	71.8	71.8	84.3	82.4	75.6	80.0	74.7
販売単価 (前年同期比)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
従業員 (今期の過不足)	▲ 29.1	▲ 30.5	▲ 43.7	▲ 48.6	▲ 39.5	▲ 42.3	▲ 41.4	▲ 44.6	▲ 28.3	-
新規設備投資した割合	19.7	25.4	17.4	23.6	17.1	25.7	22.2	27.0	15.5	27.4

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。



# 卸売業

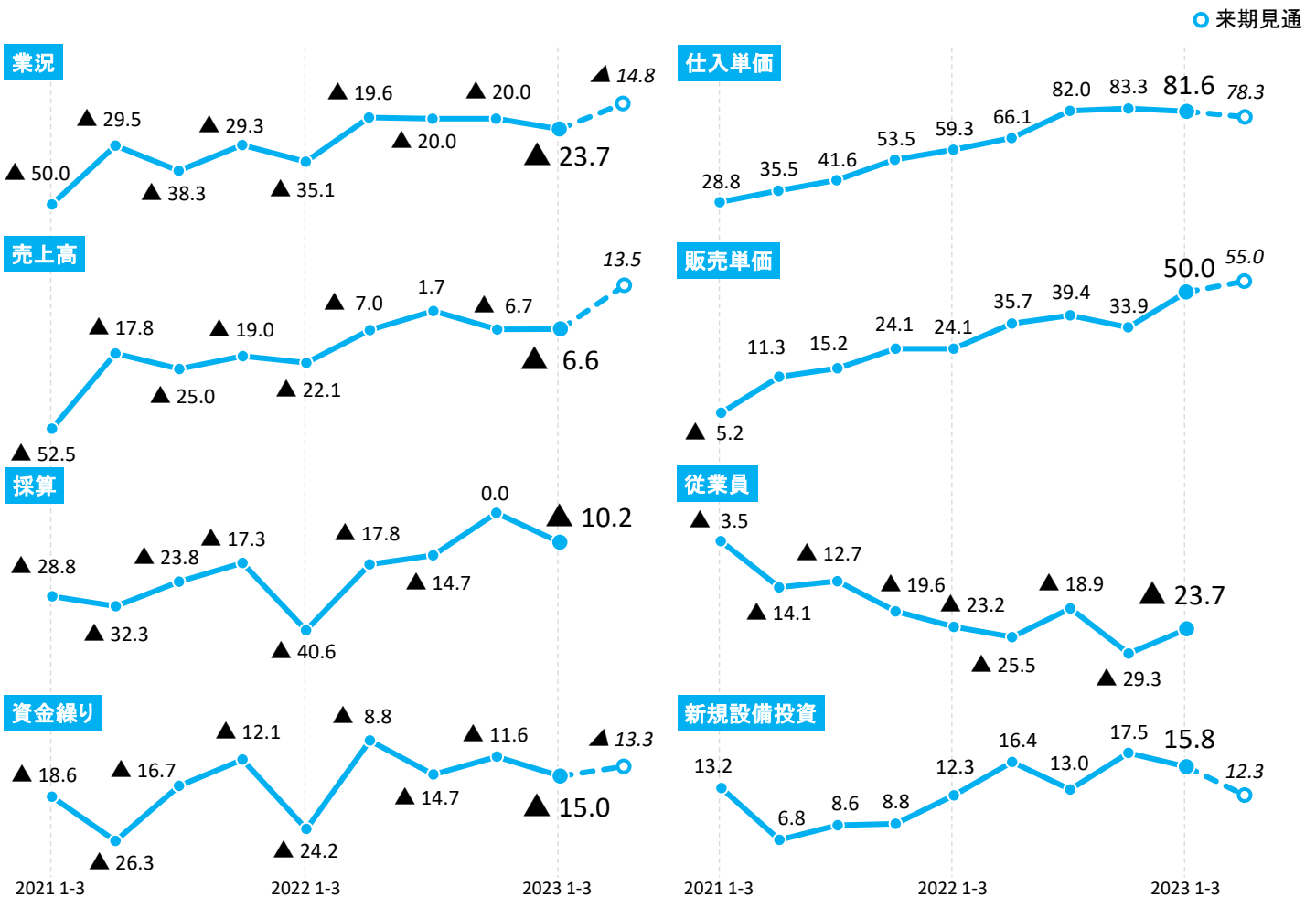
## ■主なコメント

- ・4月以降も資材の値上げは続く見込み。中でも生コンの値上がり幅が大きく、住宅建築への影響を心配している。物不足は解消されつつあり、以前のような「物が入ってこない」「いつ入ってくるかわからない」という状況ではない。（建設資材卸売業）
- ・燃料油価格激変緩和補助金の動向に注視している。期間終了となる令和5年9月末以降、どのような情勢になるかもわからないため、年後半の業況については悪化を前提に考えている。（石油卸売業）
- ・得意先やメーカーの倒産が増えている。正社員、パートとも人材が不足しており、商品供給も遅れが生じるようになってきている。（一般菓子・玩具卸売業）

## ■D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況 (前年同期比)	▲ 50.0	▲ 29.5	▲ 38.3	▲ 29.3	▲ 35.1	▲ 19.6	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 23.7	▲ 14.8
売上高 (前年同期比)	▲ 52.5	▲ 17.8	▲ 25.0	▲ 19.0	▲ 22.1	▲ 7.0	1.7	▲ 6.7	▲ 6.6	13.5
採算 (今期の経常損益)	▲ 28.8	▲ 32.3	▲ 23.8	▲ 17.3	▲ 40.6	▲ 17.8	▲ 14.7	0.0	▲ 10.2	-
資金繰り (前年同期比)	▲ 18.6	▲ 26.3	▲ 16.7	▲ 12.1	▲ 24.2	▲ 8.8	▲ 14.7	▲ 11.6	▲ 15.0	▲ 13.3
仕入単価 (前年同期比)	28.8	35.5	41.6	53.5	59.3	66.1	82.0	83.3	81.6	78.3
販売単価 (前年同期比)	▲ 5.2	11.3	15.2	24.1	24.1	35.7	39.4	33.9	50.0	55.0
従業員 (今期の過不足)	▲ 3.5	▲ 14.1	▲ 12.7	▲ 19.6	▲ 23.2	▲ 25.5	▲ 18.9	▲ 29.3	▲ 23.7	-
新規設備投資した割合	13.2	6.8	8.6	8.8	12.3	16.4	13.0	17.5	15.8	12.3

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。



# 小売業

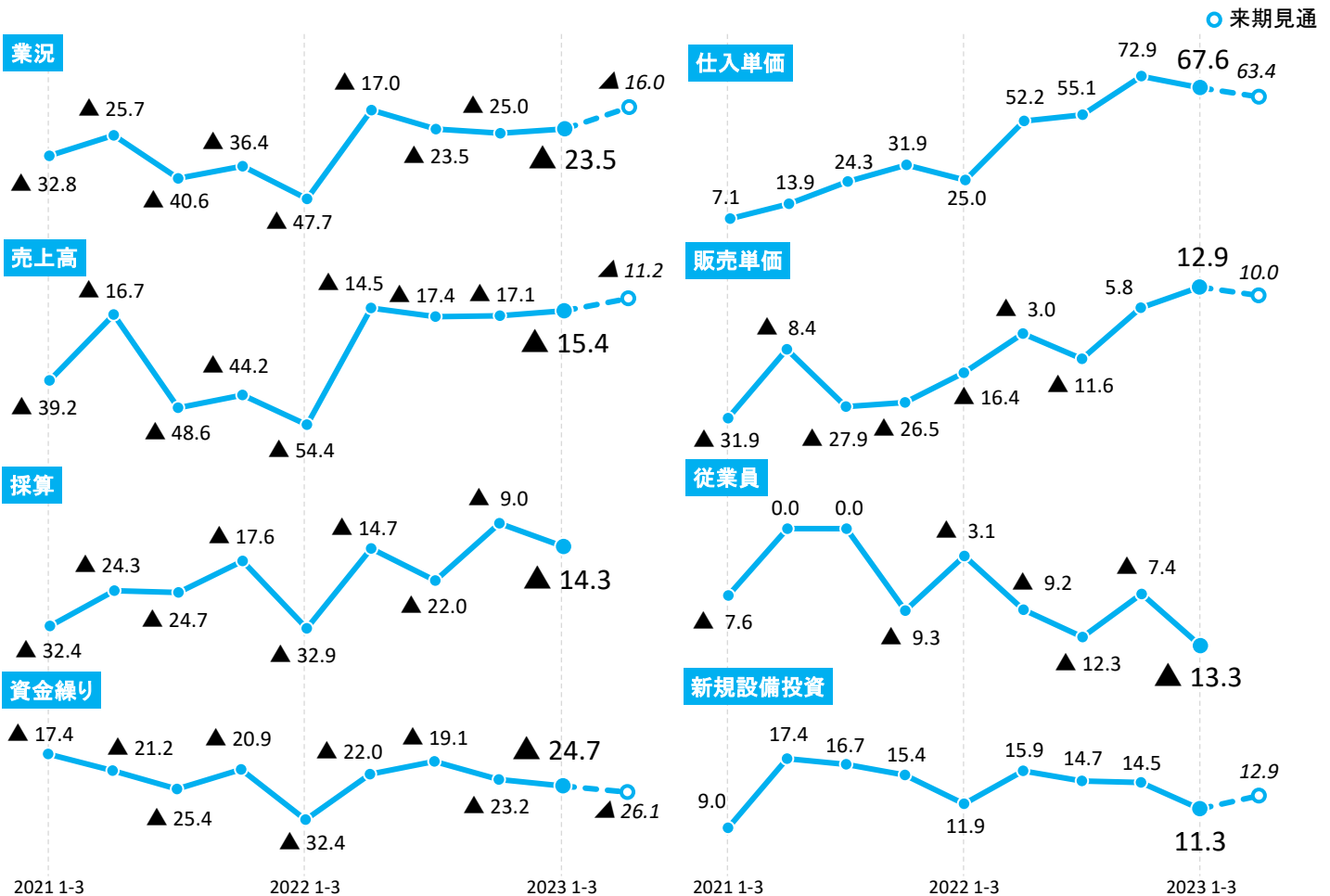
## ■主なコメント

- ・コロナからの回復基調は継続しており、現在も対前年同月で増収傾向。この流れは5月の連休明けまで続くと考えている。  
一方、取引業者からの値上げも続いており、商品値上げで価格転嫁を図るも追いついてはいない状況。 (食料品小売業)
- ・半導体不足の影響から、4~9月は納品中心の動きとなり売上は減少見込み。油脂類の価格高騰を受け、工場での作業料金については改定が必要となっている。 (自動車小売業)
- ・人流抑制の流れが変わった事で、客数については増加を見込んでいる。電気料金の高騰が話題となっているので、省エネ家電の販売に注力したい。 (燃料販売小売業)

## ■D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況 (前年同期比)	▲ 32.8	▲ 25.7	▲ 40.6	▲ 36.4	▲ 47.7	▲ 17.0	▲ 23.5	▲ 25.0	▲ 23.5	▲ 16.0
売上高 (前年同期比)	▲ 39.2	▲ 16.7	▲ 48.6	▲ 44.2	▲ 54.4	▲ 14.5	▲ 17.4	▲ 17.1	▲ 15.4	▲ 11.2
採算 (今期の経常損益)	▲ 32.4	▲ 24.3	▲ 24.7	▲ 17.6	▲ 32.9	▲ 14.7	▲ 22.0	▲ 9.0	▲ 14.3	-
資金繰り (前年同期比)	▲ 17.4	▲ 21.2	▲ 25.4	▲ 20.9	▲ 32.4	▲ 22.0	▲ 19.1	▲ 23.2	▲ 24.7	▲ 26.1
仕入単価 (前年同期比)	7.1	13.9	24.3	31.9	25.0	52.2	55.1	72.9	67.6	63.4
販売単価 (前年同期比)	▲ 31.9	▲ 8.4	▲ 27.9	▲ 26.5	▲ 16.4	▲ 3.0	▲ 11.6	5.8	12.9	10.0
従業員 (今期の過不足)	▲ 7.6	0.0	0.0	▲ 9.3	▲ 3.1	▲ 9.2	▲ 12.3	▲ 7.4	▲ 13.3	-
新規設備投資した割合	9.0	17.4	16.7	15.4	11.9	15.9	14.7	14.5	11.3	12.9

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。



# サービス業

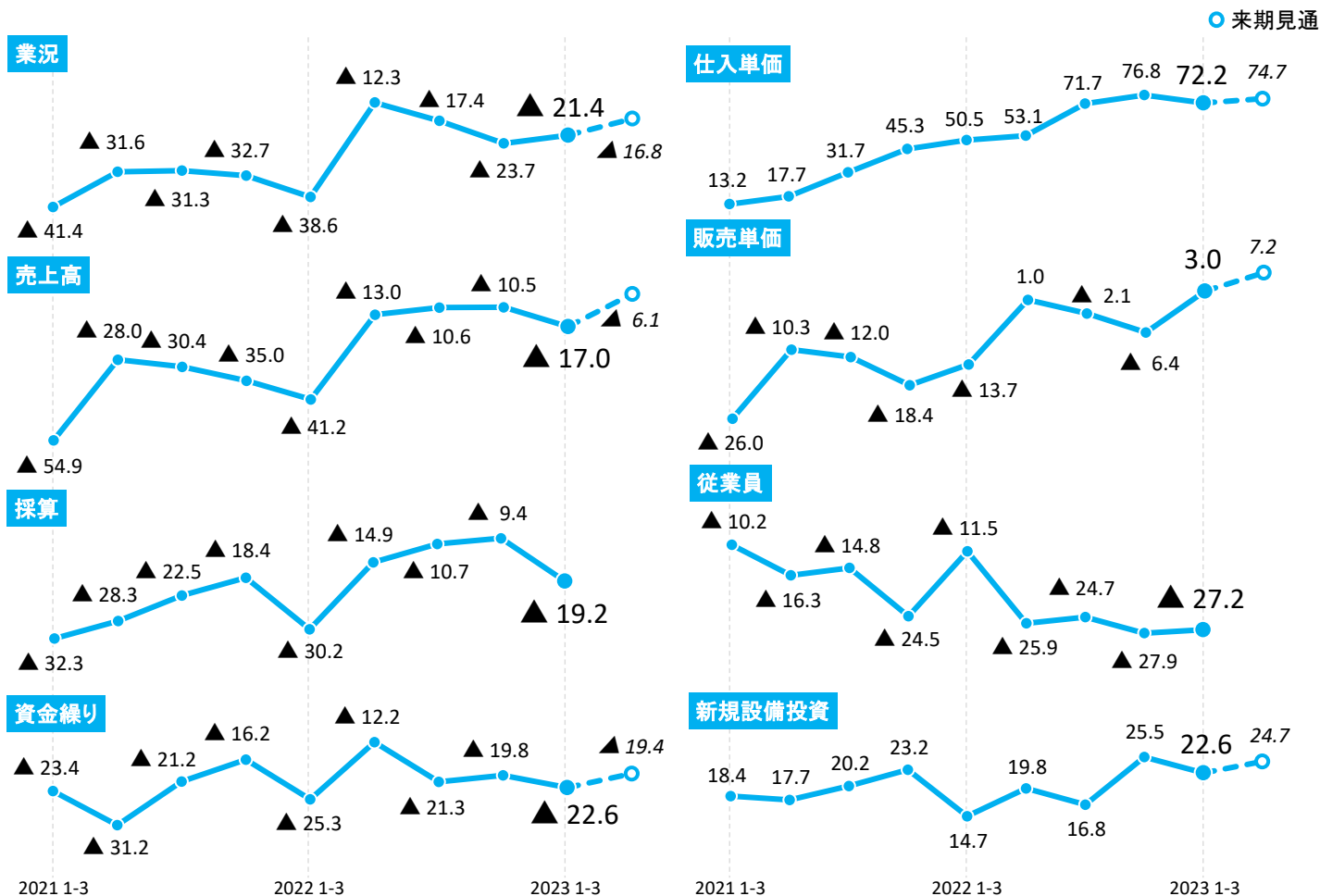
## ■主なコメント

- ・コロナ禍以前の状況に少しずつ戻ってきている。本州からのお客さまやインバウンドの観光客が増えてきて売上は増加したが、材料価格の高騰や光熱費その他経費の増加があり、利益率はあまり良くない。 (飲食業)
- ・昨年の6月より高稼働の状況となっている。稼働率が良い時に安売りをしないことで価格転嫁も進めているが、エネルギー価格の高騰が逆風。またタクシー業界の人手不足は観光業界全体に対し、間接的な痛手となっている。 (ホテル業)
- ・取引先の廃業により、調達できる商品の量・種類が減少した。自社事業での選択幅が縮小していると感じる。 (建設設計業)

## ■D・I

	2021 1-3	2021 4-6	2021 7-9	2021 10-12	2022 1-3	2022 4-6	2022 7-9	2022 10-12	2023 1-3	2023 4-6(見通)
業況 (前年同期比)	▲ 41.4	▲ 31.6	▲ 31.3	▲ 32.7	▲ 38.6	▲ 12.3	▲ 17.4	▲ 23.7	▲ 21.4	▲ 16.8
売上高 (前年同期比)	▲ 54.9	▲ 28.0	▲ 30.4	▲ 35.0	▲ 41.2	▲ 13.0	▲ 10.6	▲ 10.5	▲ 17.0	▲ 6.1
採算 (今期の経常損益)	▲ 32.3	▲ 28.3	▲ 22.5	▲ 18.4	▲ 30.2	▲ 14.9	▲ 10.7	▲ 9.4	▲ 19.2	-
資金繰り (前年同期比)	▲ 23.4	▲ 31.2	▲ 21.2	▲ 16.2	▲ 25.3	▲ 12.2	▲ 21.3	▲ 19.8	▲ 22.6	▲ 19.4
仕入単価 (前年同期比)	13.2	17.7	31.7	45.3	50.5	53.1	71.7	76.8	72.2	74.7
販売単価 (前年同期比)	▲ 26.0	▲ 10.3	▲ 12.0	▲ 18.4	▲ 13.7	1.0	▲ 2.1	▲ 6.4	3.0	7.2
従業員 (今期の過不足)	▲ 10.2	▲ 16.3	▲ 14.8	▲ 24.5	▲ 11.5	▲ 25.9	▲ 24.7	▲ 27.9	▲ 27.2	-
新規設備投資した割合	18.4	17.7	20.2	23.2	14.7	19.8	16.8	25.5	22.6	24.7

※D・Iとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・黒字)割合から減少(悪化・低下・赤字)割合を差し引いた値を示す。



## Ⅷ. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 2023年3月  
(2) 調査対象期間 2023年1～3月期実績及び2023年4～6月期見通し

### 2. 調査対象

#### (1) 中小企業景況調査

「製造業」、「建設業」については、資本金3億円以下、又は従業員300人以下の企業、  
「卸売業」については、資本金1億円以下、または従業員100人以下の企業、  
「小売業」については、資本金5千万円以下、または従業員50人以下の企業、  
「サービス業」については、資本金5千万円以下、または従業員100人以下の企業を対象とした。

来期は新:

#### (2) 業界動向調査

道内各地商工会議所が地域の中小企業者との相談等により情報収集した特徴的事例。  
また、各業界組合・企業に対し独自に聞き取り調査を実施し、生の声を収集した。

### 3. 調査地域及び調査方法

全道商工会議所地域の中小企業に対しアンケート調査を実施(中小企業景況調査)  
全道商工会議所を通じて地域の業界・組合等へヒアリング調査を実施(業界動向調査)

### 4. 業種別・規模別回答状況(社数)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小規模	44	59	40	61	74	278
中規模	14	16	20	10	26	86
合計	58	75	60	71	100	364
構成比	15.9%	20.6%	16.5%	19.5%	27.5%	100.0%

〈業界動向調査〉

ヒアリング先

製造業 40社、建設業 34社、卸売業 23社、  
小売業 29社、サービス業 44社 合計 170社

■過去の調査結果はコチラ



【URL】 <https://www.hokkaido.cci.or.jp/demand/research/>

D・Iとは…

本調査結果中の「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値(景気動向指数)を示す。